

セルフ・ディベート

国語監修・執筆

古宮 才由里

■ 今回のポイント

- ①セルフ・ディベートの必要性
- ②セルフ・ディベート三点セットメモ
- ③セルフ・ディベートに挑戦

■ 今回の言語活動

1 セルフ・ディベートの必要性

説得力のある主張をするには、主張の裏付けとなる「根拠」が欠かせません。しかしながら、根拠を数多く述べれば相手を説得できるものかという点、そうでもありません。根拠は、量より「質」が大切です。

質の高い根拠を示すためには、相手の考えを探ることが必要です。特に、「反論」を探ることは大切なポイントです。相手の「反論」を想定し、相手が納得のいくような根拠を用意することで、自分の主張が伝わりやすくなります。

セルフ・ディベートでは、たった一人で、論題に対する肯定（賛成）派、否定（反対）派の二つの立場を同時に想定して、それぞれの意見を戦わせます。「反論」を考え、主張や根拠をより確かなものにするために、効果的な方法です。

2 セルフ・ディベート三点セットメモ

セルフ・ディベート三点セットメモを作ります。「立論」「反論」「主張」をそれぞれまとめてみましょう。

- ①「立論」…… 論題に対する意見や根拠を述べる。
③のセルフ・ディベートの練習①②
- ②「反論」…… 立論に対して予想される意見や批判を述べる。
③のセルフ・ディベートの練習③
- ③「主張」…… 反論に対して反論し、最終的な主張を述べる。
③のセルフ・ディベートの練習④⑤

三点セットメモを作成する場合に、「立論」と「主張」における自分の立場や

主張を統一する必要があります。はつきりと述べて、内容があいまいにならないようにしましょう。

③ セルフ・ディベートに挑戦

- ① 論題に対する自分の立場を決める。肯定（賛成） or 否定（反対）
- ② 主張をまとめ、具体的な根拠を挙げる。
- ③ 反論を想定する。
- ④ 反論に対する自分の反論を練り上げる。
- ⑤ もう一度、自分の主張を確かめる。

反論（③）には、一般的に広く知られていたり、多くの人が共感できたりする内容や事例が有効です。特異な体験や個人的な見解に基づいた反論、一部の人のしか理解できないような反論は、どんなに説明しやすくても、相手を納得させることは困難です。一方で、自分が意見や説明できないような反論を挙げたら、自分の主張が弱まるばかりで説得力は得られません。相手に違和感を与えず、すつと納得させられるような反論を選ぶ練習をして、自分の思考を鍛えましょう。

■ 今回のまとめ

セルフ・ディベートは、「見えない敵（反論）」を想定して議論することで、自分の主張をより確かなものにする方法です。「反論」を想定して主張や根拠を疑うことは、それまでの自己を見つめ直し、もの見方を広げるきっかけにもなります。

そうは言っても「反論を挙げることは難しい」このように感じたら、身近な人に自分の主張や根拠に対して質問してもらいましょう。反論のヒントにつながります。また、質問の意図を教えるもらおうと、相手と自分のもの見方や考え方の違いに気づかされ、物事に対する視野を広げることが出来ます。新聞やニュース、図書などを通して多くの情報を得ることも大切です。社会に存在する多様性や異なる立場から発信されるさまざまな意見にも触れましょう。

